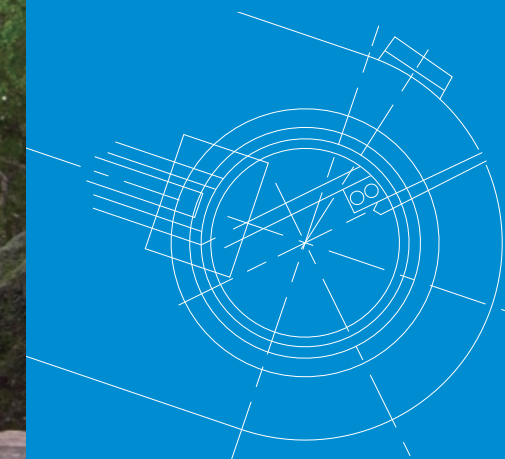


NIKKAN Report

第171期 報告書

2010年4月1日～2011年3月31日



日本ルツボ株式会社

証券コード:5355

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日 3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会 毎年6月下旬
単元株式数 1,000株
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。
公告方法	電子公告 (http://www.rutsubo.com/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

※未払配当金のみ、株式会社みずほ銀行本店および全国各支店でもお取扱いたします。



ルツボについて

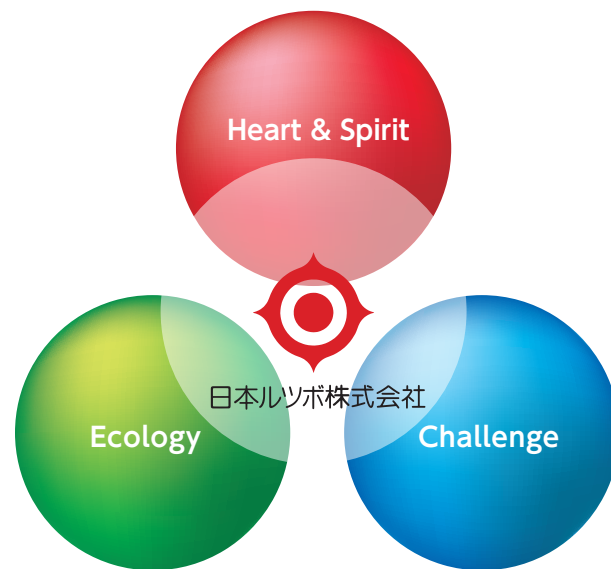
5,000年以上の歴史を持つルツボは、人類に様々な文明をもたらしてきました。現在でも、自動車・電気機器・機械・IT機器・公共土木・住宅関連・環境関連部品の鑄造には欠かせず、まさに一国の産業を支える器(うつわ)です。そのサイズは、酒杯くらいのものから、大きいものは直径1m、高さ1.5mのものまであり、銅合金で5.5トン、アルミニウムで1.7トンを溶解できます。ルツボは原初以来その形を変えませんが、その素材および製造技術は日進月歩であり、当社のルツボも最先端の技術により進化を続けています。アジアの経済発展が急速に進む今、様々な産業で大量の金属部品が必要とされ、そのために最高品質のルツボが求められています。当社のルツボは新たな時代のニーズに確実に応えています。

 日本ルツボ株式会社
Nippon Crucible Co., Ltd.

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-3 恵比寿NRビル
Tel : 03-3443-5551 Fax : 03-3443-5191
URL : <http://www.rutsubo.com/>



わが社は、
創造性豊かな活力に満ちた
役職員により、伝統を守りつつ、
いかなる時代、いかなる環境にも
適合する会社を、目指します。

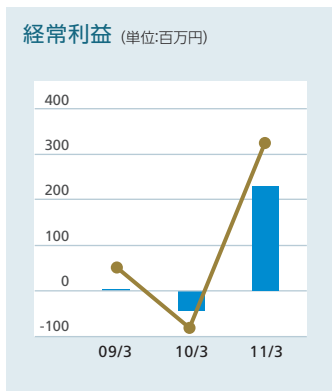


Heart & Spirit
当社は明治の創業以来、お客さまニーズを的確に把握し新製品の開発、新ジャンルの開拓を推し進めてまいりました。21世紀も、その姿勢は変わりません。

Ecology
当社は、どんなに優れた技術であっても地球環境にダメージをあたえてはならないと考えます。環境に対して求められるもの、必要なものを展望しながら製品・設備を提供してまいります。

Challenge
「現状維持は退化につながる」という発想のもと、常に新しい技術を開発し続け、新しい分野への進出によりお客さまの満足を実現してまいります。

財務ハイライト



この度の東日本大震災により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。当期はリーマンショック後の厳しい状況からようやく抜け出すことができ、新たな成長の道筋をつけることができました。これを区切りに経営の若返りを図るため、新社長に大久保正志が就任いたしました。



代表取締役会長
岡田 民雄



代表取締役社長
大久保 正志

第171期(2010年度)の業績は、2008年に発生したリーマンショックの傷も癒え、当社の売上に大きな影響力を持つ自動車産業および鉄鋼産業が概ね堅調に推移したことに加え、経費削減活動を徹底してきたことにより、前期比増収増益の決算となりました。

連結ベースで売上高7,887百万円(前期比1,101百万円増)、営業利益350百万円(同425百万円増)、経常利益324百万円(同417百万円増)、当期純利益241百万円(同205百万円増)となりました。

当社の配当方針は、株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題のひとつと考え、安定配当の維持を基本としております。第171期の配当につきましては、当期の業績と今後の経営環境などを踏まえ、前期比2円増配し1株につき3円とさせていただきます。

私は、「既存製品・既存市場である岩盤をしっかり固め、その上に新製品の開発、新市場の開拓、新事業の構築を成し遂げねば会社の維持・発展はない」と考え、実践してまいりました。

今回の大震災からの一日も早い復興のために、当社のルツボ・耐火物がお役に立ち、貢献できたらと願っております。

今後も岩盤をしっかり固め、企業価値の向上に努めてまいりますので、株主の皆様よりの変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

この度、6月29日の株主総会、その後の取締役会で、日本ルツボ株式会社の代表取締役社長に就任いたしました。

第172期(2011年度)は、大震災の影響でお客さまに甚大な被害が出ており、更にこれらのお客さまが製造していた部品等の供給不足と電力供給問題の長期化が懸念され、今後の生産活動に与える影響は小さからぬものがあると思われまます。

従って当社にとって上期は厳しい経営環境が予想されますが、下期にかけて生産活動は徐々に回復してくるものと思われまます。

当社といたしましては、主力分野の鑄造市場、鉄鋼市場向けを中心に、確実な製品供給体制を確保し、前向きに取り組んでまいります。

一方、中国を中心とした大きなマーケットであるアジア市場につきましては、「日坭商貿(上海)有限公司」を立ち上げ、本年6月より営業活動を開始いたしました。

当社は、今後も積極的な既存製品の品質向上と市場のニーズに合った新製品の開発に注力し、企業価値の持続的成長と向上を目指し、邁進してまいります。

今後も株主の皆様よりの変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

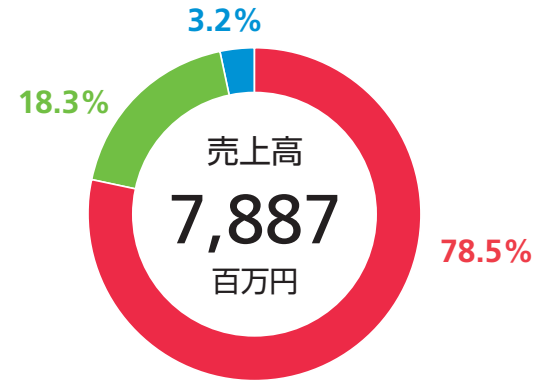
中国・アジア圏での目覚ましい経済成長を背景に国内主要市場である鑄造・鉄鋼が順調に回復。「アジアは内需」の経営方針の下、耐火物を中心にエンジニアリング事業とも連携したサービス体制を充実し、環境に優しい商品力強化を進めています。

● 耐火物等

耐火物事業の事業戦略は国内市場の掘り起こしを堅実に進めることはもとより、「アジアは内需」との認識を深め、「アジアNo. 1」の地位を築くべく中国、アジア市場への進出を積極的に進め、それぞれの国、地域に貢献してまいります。その事業戦略の目指す方向性は「省エネ型製品」「環境負荷の少ない製品」「次世代特殊金属溶解用製品」「現有製品の新たな用途開発」であり、これらの研究開発を積極的に進め顧客満足向上を図ってまいります。鑄造市場では、自動車産業の回復とともに売上は順調に回復してまいりました。しかしながら、今回の東日本大震災で多くの関連する企業が大きな打撃を受け、その影響が懸念されますが、早期復興に向け確実な製品供給体制を確保してまいります。また、不定形耐火物を中心とする鉄鋼市場では、納期短縮、品質向上、コスト削減等の顧客要求に迅速に対応するとともに、技術サービスの強化を図りシェアの維持拡大に努めております。また、「特殊合金溶解用ルツボ(ホワイトフェニックス)」や「省エネ型ルツボ(ゼブラックス)」等の開発製品の拡販活動にも積極的に取り組んでおります。

● エンジニアリング

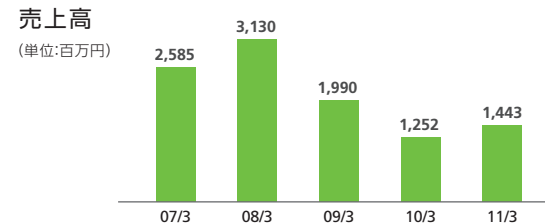
エンジニアリング部門は、新たに鑄鉄鑄造市場と非鉄鑄造市場を担当する築炉エンジニアリング事業部と、ごみ焼却炉や熔融炉市場を担当する環境事業部に再編して、「耐火物メーカーのエンジニアリング」を一層充実させております。築炉エンジニアリング事業部は、鑄鉄鑄造グループでは、当社製高性能誘導炉材を使用した誘導炉の施工により、また非鉄鑄造市場グループでは、小型化した高性能急速溶解炉や製造のメンテナンス工事により着実に売上を伸ばしております。また、アルミニウム溶解炉と保持炉を一体化したルツボ式連続溶解保持炉(メルキーパー)は、省エネ・高歩留まり・高品質溶湯を果した設備として国内外で採用いただいております。環境事業部では、当社製品中でも年々ご採用が増加している特殊補修材<クイックセッター>や、特殊キャストブルシリーズを駆使して、民間から自治体まで焼却炉のメンテナンス工事を拡充しております。



耐火物等	●	6,194百万円
エンジニアリング	●	1,443百万円
不動産賃貸事業	●	249百万円

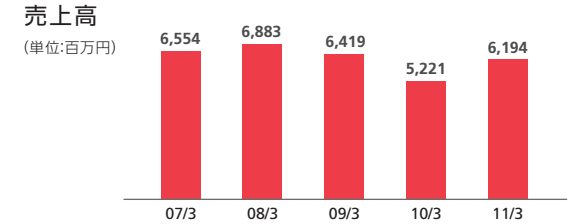
● エンジニアリング

エンジニアリング事業につきましては、素形材関連産業における設備投資の回復、および焼却炉工事の受注等により、売上高は増加いたしました。



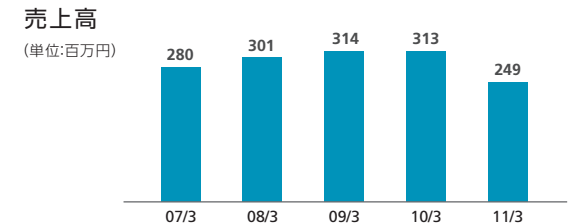
● 耐火物等

耐火物等事業につきましては、自動車をはじめ輸送機械関連企業の順調な需要回復や、粗鋼生産の回復に伴う需要の増加等により、売上高は増加いたしました。海外においても、中国・東南アジア向け需要が急速に回復したことにより、黒鉛ルツボおよびルツボ式連続溶解保持炉(メルキーパー)の販売が順調に推移し、売上高は増加いたしました。



● 不動産賃貸事業

不動産賃貸事業につきましては、一部テナントの退居により売上高は減少いたしました。今後も本社賃貸ビルを中心に安定的収入を確保しつつ、豊田工場および大阪工場の土地有効活用を推進してまいります。



※ 製品ピックアップ

省エネ型 縦溝付ルツボ『ZEBRAX』の商品化

～商標・意匠登録済み～

商標 商願2007-113218

意匠登録 意願2010-001283, No402010003065 (2010.7.21登録、中国、タイ、インド、米国、ドイツ)

世界的にCO₂削減が叫ばれている中、金属溶解が欠かせない鑄造業界もエネルギーをいかに減らすか、なくすかの取り組みが求められています。当社は、世界に先駆けて黒鉛質ルツボの製造にCIP成形(冷間等方圧加工法)を採用し、技術革新を起こした実績を持っています。この技術を発展させ黒鉛質ルツボの外表面に縦溝を付け受熱面積を約30%増大させ、伝熱効果を大幅に向上する高効率ルツボを開発いたしました。このルツボにより、ダイカストやグラビティ鑄造の溶解・保持では8～10%の燃料ガスの使用低減が図れるとともに短時間溶解を達成し、生産効率向上、省エネルギー、環境負荷軽減に大きく貢献することが可能となりました。この技術は、日本鑄造工学会により高い評価を受け2011年5月『豊田賞』をいただいております。2009年4月より量産を開始し、日本国内、中国、東南アジアなどを中心にルツボ炉・メルキーパー炉で多くの顧客に採用され好評をいただいております。



海外展開・合併事業

中国とアジア市場の営業拠点
「日坩商貿(上海)有限公司」を設立

中国市場に対しては、2008年12月に駐在員事務所として「上海代表処」を設立し、情報拠点として活動してまいりましたが、この度、市場の変化とお客様のニーズに迅速に対応するため、「上海代表処」を100%出資の販売会社「日坩商貿(上海)有限公司」に発展させ、今後の中国市場およびアジア市場における黒鉛ルツボおよび耐火物のシェア拡大を目指し、2011年6月より営業活動を開始いたしました。



各種産業・分野に貢献 ●自動車産業 ●鉄鋼産業 ●エネルギー分野 ●環境関連分野



連結財務諸表

連結貸借対照表

科目	当期 2011年3月31日現在	前期 2010年3月31日現在
資産の部		
流動資産	6,756,680	5,872,929
現金及び預金	2,206,278	1,695,830
受取手形及び売掛金	2,833,146	2,550,271
たな卸資産	1,392,376	1,364,792
その他	325,680	262,636
貸倒引当金	△800	△600
固定資産	2,948,229	3,256,937
(有形固定資産)	(1,796,843)	(2,013,243)
建物及び構築物	1,048,527	1,112,730
機械装置及び運搬具	342,199	412,755
土地	96,379	200,056
その他	309,738	287,702
(無形固定資産)	(22,502)	(24,050)
(投資その他の資産)	(1,128,884)	(1,219,644)
投資有価証券	508,874	539,194
繰延税金資産	302,071	357,907
その他	425,558	431,707
貸倒引当金	△107,619	△109,164
資産合計	9,704,909	9,129,866

POINT

- 流動資産** 売上増加に伴い、現金及び預金が5.1億円、受取手形及び売掛金が2.8億円増加いたしました。
- 固定資産** 東京工場売却により、土地が1億円減少いたしました。
- 流動負債** 支払手形及び買掛金が1.5億円、短期借入金が1.2億円増加いたしました。
- 固定負債** 長期借入金が1.7億円減少いたしました。
- 純資産** 利益剰余金が2.3億円増加いたしました。

(単位:千円、千円未満四捨五入)

科目	当期 2011年3月31日現在	前期 2010年3月31日現在
負債の部		
流動負債	4,713,980	4,186,253
支払手形及び買掛金	1,339,474	1,185,911
短期借入金	2,575,782	2,459,969
その他	798,724	540,373
固定負債	2,238,345	2,402,626
長期借入金	1,289,890	1,459,672
退職給付引当金	435,593	416,441
その他	512,862	526,513
負債合計	6,952,325	6,588,879
純資産の部		
株主資本	2,734,639	2,507,206
資本金	704,520	704,520
資本剰余金	56,076	56,076
利益剰余金	2,042,980	1,815,380
自己株式	△68,937	△68,770
評価・換算差額等	3,433	24,393
少数株主持分	14,512	9,388
純資産合計	2,752,584	2,540,987
負債・純資産合計	9,704,909	9,129,866

POINT

- 売上高は11億円増加いたしました(16.2%増)。操業度が改善したことにより、売上総利益率は28.2%となり、また経費削減にも努めた結果、営業利益は4.3億円、経常利益は4.2億円増加いたしました。
- 特別利益に土地売却益0.8億円を計上いたしました。
- 法人税等が1.2億円増加しましたが、当期純利益は2.1億円の増加となりました。

連結損益計算書

(単位:千円、千円未満四捨五入)

科目	当期 自 2010年4月 1日 至 2011年3月31日	前期 自 2009年4月 1日 至 2010年3月31日
売上高	7,886,668	6,785,636
売上原価	5,658,445	5,147,611
売上総利益	2,228,223	1,638,025
販売費及び一般管理費	1,877,955	1,713,335
営業利益又は営業損失(△)	350,268	△75,310
営業外収益	57,583	77,745
営業外費用	84,263	95,409
経常利益又は経常損失(△)	323,588	△92,974
特別利益	83,493	214,235
特別損失	28,105	35,749
税金等調整前当期純利益	378,976	85,512
法人税、住民税及び事業税	131,185	11,680
法人税等調整額	1,545	39,795
少数株主利益又は少数株主損失(△)	5,124	△2,046
当期純利益	241,122	36,083

連結株主資本等変動計算書 (自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)

(単位:千円、千円未満四捨五入)

項目	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2010年3月31日残高	704,520	56,076	1,815,380	△68,770	2,507,206	40,600	△6,127	△10,080	24,393	9,388	2,540,987
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△13,522		△13,522						△13,522
当期純利益			241,122		241,122						241,122
自己株式の取得				△167	△167						△167
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					—	△14,343	3,281	△9,898	△20,960	5,124	△15,836
連結会計年度中の変動額合計	—	—	227,600	△167	227,433	△14,343	3,281	△9,898	△20,960	5,124	211,597
2011年3月31日残高	704,520	56,076	2,042,980	△68,937	2,734,639	26,257	△2,846	△19,978	3,433	14,512	2,752,584

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円、千円未満四捨五入)

科目	当期 自 2010年4月 1日 至 2011年3月31日	前期 自 2009年4月 1日 至 2010年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	457,455	348,915
投資活動によるキャッシュ・フロー	153,537	113,858
財務活動によるキャッシュ・フロー	△100,440	△309,910
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,155	△399
現金及び現金同等物の増減額	508,397	152,464
現金及び現金同等物の期首残高	1,559,230	1,406,766
現金及び現金同等物の期末残高	2,067,627	1,559,230

POINT

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益3.8億円により4.6億円のプラスとなりました。
投資活動によるキャッシュ・フローは、土地売却により1.6億円のプラス、現金及び現金同等物の期末残高は5.1億円増加し、20.7億円となりました。

個別財務諸表(要約)

貸借対照表

(単位:千円、千円未満四捨五入)

科目	当期 2011年3月31日現在	前期 2010年3月31日現在
資産の部		
流動資産	5,925,800	5,142,302
固定資産	2,675,622	2,990,512
資産合計	8,601,422	8,132,814
負債の部		
流動負債	4,219,528	3,743,036
固定負債	2,066,835	2,224,771
負債合計	6,286,363	5,967,807
純資産の部		
株主資本	2,291,892	2,130,778
資本金	704,520	704,520
資本剰余金	56,076	56,076
利益剰余金	1,600,233	1,438,952
自己株式	△68,937	△68,770
評価・換算差額等	23,167	34,229
純資産合計	2,315,059	2,165,007
負債・純資産合計	8,601,422	8,132,814

株主資本等変動計算書

(自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)

(単位:千円、千円未満四捨五入)

項目	株主資本										評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他の有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金合計		配当準備積立金	別途積立金	繰越利益剰余金						利益剰余金合計	
2010年3月31日残高	704,520	56,076	56,076	163,380	10,000	780,661	484,911	1,438,952	△68,770	2,130,778	40,356	△6,127	34,229	2,165,007
事業年度中の変動額														
剰余金の配当							△13,522	△13,522		△13,522				△13,522
当期純利益							174,803	174,803		174,803				174,803
自己株式の取得									△167	△167				△167
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)											△14,343	3,281	△11,062	△11,062
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	—	161,281	161,281	△167	161,114	△14,343	3,281	△11,062	150,052
2011年3月31日残高	704,520	56,076	56,076	163,380	10,000	780,661	646,192	1,600,233	△68,937	2,291,892	26,013	△2,846	23,167	2,315,059

損益計算書

(単位:千円、千円未満四捨五入)

科目	当期 自 2010年4月 1日 至 2011年3月31日	前期 自 2009年4月 1日 至 2010年3月31日
売上高	7,432,047	6,425,159
売上原価	5,468,013	4,903,468
売上総利益	1,964,034	1,521,691
販売費及び一般管理費	1,701,715	1,539,459
営業利益又は営業損失(△)	262,319	△17,768
営業外収益	44,669	60,774
営業外費用	76,084	84,798
経常利益又は経常損失(△)	230,904	△41,792
特別利益	83,493	161,084
特別損失	26,709	25,263
税引前当期純利益	287,688	94,029
法人税、住民税及び事業税	99,000	4,000
法人税等調整額	13,885	43,659
当期純利益	174,803	46,370

インフォメーション

会社概要 (2011年3月31日現在)

社名	日本ルツボ株式会社 (登記上社名:日本坩堝株式会社) Name:Nippon Crucible Co., Ltd.
設立	明治39年(1906年)12月
本店所在地	東京都渋谷区恵比寿1-21-3恵比寿NRビル TEL(代表) 03-3443-5551
資本金	7億452万円
証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
会計監査人	有限責任監査法人トーマツ
証券コード	5355
従業員数	企業団体の従業員数 206名(前期末に比べ8名減) 当社の従業員数 156名(前期末に比べ2名減)

役員 (2011年6月29日現在)

代表取締役会長	岡田 民雄
代表取締役社長	大久保 正志
常務取締役	佐野 俊昭
取締役	大橋 秀明
取締役	仁張 俊文
取締役	坂本 信治
常勤監査役	安田 哲夫
監査役	茂木 康三郎
監査役	草野 成郎

(注)常勤監査役安田哲夫氏、監査役茂木康三郎氏および監査役草野成郎氏は、社外監査役であります。

株式の状況 (2011年3月31日現在)

発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式の総数	14,090,400株(自己株式569,855株を含む。)
株主数	1,590名

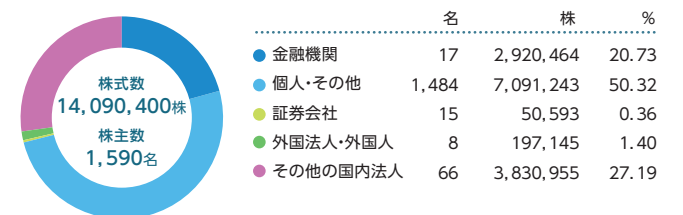
大株主の状況 (2011年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社みずほ銀行	650,000	4.80
プリヴェ企業再生グループ株式会社	633,000	4.68
柏屋商事株式会社	550,000	4.06
株式会社みずほコーポレート銀行	438,000	3.23
岡田民雄	436,000	3.22
野村信託銀行株式会社(信託口)	432,464	3.19
日本坩堝従業員持株会	382,000	2.82
東京海上日動火災保険株式会社	280,000	2.07
日本精鉱株式会社	254,000	1.87
三井住友海上火災保険株式会社	238,000	1.76

(注)1.当社は自己株式569,855株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
2.持株比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
3.持株比率は、自己株式(569,855株)を控除して計算しております。

株式の分布 (2011年3月31日現在)

所有者別分布



所有株数別分布

